

都市空間における外空間アーバン・インテリアと内部性

大阪産業大学工学部 ペリー 史子
大阪産業大学工学部 榎原 和彦

1. 研究の背景

都市空間は、誰でもがアクセスできる公共空間とアクセスが限定されている非公共空間に大きく分けられ、公共空間はさらに、交通機関のための空間と人間のための空間である非交通空間とに分けられる。この非交通空間とは、都市公共歩行者空間であり、都市における人間の活動・行為を支え、都市の魅力を高める重要な空間である。そこに人が集まることで都市の活力の源となるため、都市・まちづくりにおいて空間形成の重要なターゲットとなっている。

都市公共歩行者空間は、都市社会の要請に応じて、例えば公園・広場のようにオープン・スペース（空地）^{1)~3)}として取り上げられ、あるいは、自動車交通空間との対比における歩行者専用空間⁴⁾⁵⁾、室内化された街路⁶⁾⁷⁾、商業空間との関連としての歩行者空間⁸⁾⁹⁾、プライベートに対してのパブリックな空間¹⁰⁾、歩行者が自由にアクセスできる自由空間¹¹⁾として取り上げられたりし、そういう枠組みの中で、それぞれ特有の性質・役割を担う空間として着目され、調査・分析・空間形成の対象となってきた。

筆者らは、都市公共歩行者空間が、内空間であること（少なくとも天井、屋根で覆われている空間）と、外空間であること（天井、屋根に覆われていない空間）との差異に、まず着目することとした。内空間・外空間によって、空間の人的意味（空間感覚を含む）、働き、役割、空間における人間行動などにおいて見出すことができる“空間性”が大きく異なると考えられるからである。そして、物的な内空間・外空間に、内部性（内空間に特徴的であるような空間性）・外部性（外空間に特徴的であるような空間性）という空間性を加え、都市公共歩行者空間のうち、内空間および内部性の高い外空間をアーバン・インテリアと規定し、研究対象としてきた。アーバン（urban）とは「都市（街、都会）の（に属する、に関する、を構成する、を含む）」と言う意味合いであり、アーバン・インテリアは、都市を構

成するインテリアである。アーバン・インテリアは、人間に親密な、都市における人間のための空間と言えよう。

今までは、主として内空間であるアーバン・インテリア（内空間アーバン・インテリアと呼ぶ）に焦点をあて、その歴史的経緯や空間構成について研究を進めてきた^{12)~16)}が、近年の都市再開発に伴う多様な歩行者空間の出現を鑑みると、内空間ではないアーバン・インテリアについてもその特性を考察する必要があると考えられる。

2. 研究の目的

近年の種々の都市開発に伴って生み出されている、多様なかたちの高品質な歩行者空間としては、例えば、大阪のディアモール大阪やクリスタ長堀のような新しいタイプの地下空間、横浜のみなとみらい21のクイーンズスクエアや東京の丸の内オアゾ、神戸のキャナルガーデンのような建築物の内空間、大阪のオオサカガーデンシティやコムズガーデン、東京の六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、恵比寿ガーデンプレイスなどにおける建築物に取り囲まれた内部性の高い外空間をあげることができる。

本研究では、これらの中でも内部性の高い外空間であるアーバン・インテリア（外空間アーバン・インテリアと呼ぶ）を研究対象として取り上げ、都市空間の中での位置付けとその内部性について考察することを目的とする。

3. 研究対象

外空間アーバン・インテリアは、例えばヨーロッパの都市広場等、歴史の中で様々なかたちで生まれてきているが、近年の日本の都市開発で生まれてきた外空間アーバン・インテリアに着目し、その空間的様相と内部性について分析・考察する。

ここで具体的に取り上げるのは、表-1に示す、大阪、東京、福岡における近年の都市開発14地区である。これらの開発前の所有あるいは開発経緯と、おおよその敷地面積は、表-1の通りである。

4. アーバン・インテリアの空間形態ダイアグラム

各地区（敷地）内の外空間アーバン・インテリア、及び内空間アーバン・インテリア（但し建物内は除く）と建物、地区（敷地）との大まかな関係を、平面的、断面的にダイアグラム化し、表したのが、図-2である。

これらは敷地規模を考慮していないが、表-1に示されているように、対象地の規模には大きな差があり、敷地内に複数棟の建物が建っているのは規模が大きな場合である。

敷地規模が大きくないにも関わらず外空間アーバン・イ

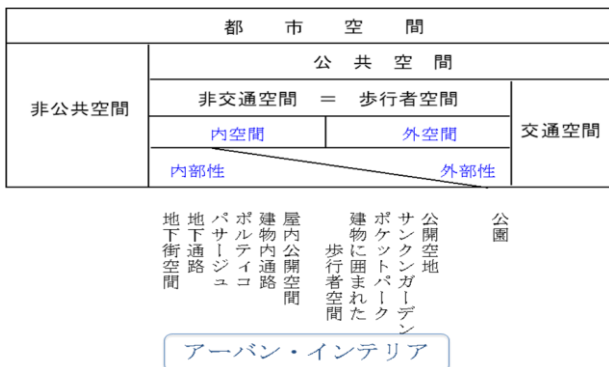


図-1 都市空間

表-1 近年の都市開発事例

名称	場所	敷地面積 ㎡	年	開発前
梅田センタービル	大阪市北区	約8,000	1987	ゴルフ打ち放し場
コムズガーデン	大阪市	約2,500	1990	地下鉄営業開始に伴い開設
新梅田シティ	大阪市北区	41,800	1993	旧ダイハツディーゼル本社・大阪工場、旧東芝関西支社とその周辺地域
恵比寿ガーデンプレイス	東京渋谷区	83,000	1994	サッポロビール工場
キャナルシティ博多	福岡市博多区	34,000	1996	鐘紡工場
東京国際フォーラム	東京千代田区	27,000	1997	東京都庁舎
オオサカガーデンシティ	大阪市北区	100,000	1997	国鉄梅田貨物南ヤード
堂島アバンザ	大阪市北区	約6,800	1999	毎日新聞大阪本社
湊町リバープレイス	大阪市浪速区	17,930	2002	国鉄湊町貨物ヤード
汐留シオサイト 1区	東京港区	53,610	2003	汐留貨物駅
六本木ヒルズ	東京都港区	116,000	2003	密集した市街地
なんばパークス	大阪市浪速区	約30,000	2003	大阪球場
丸の内オアゾ	東京千代田区	23,800	2004	国鉄本社ビル等
東京ミッドタウン	東京都港区	78,400	2007	防衛庁

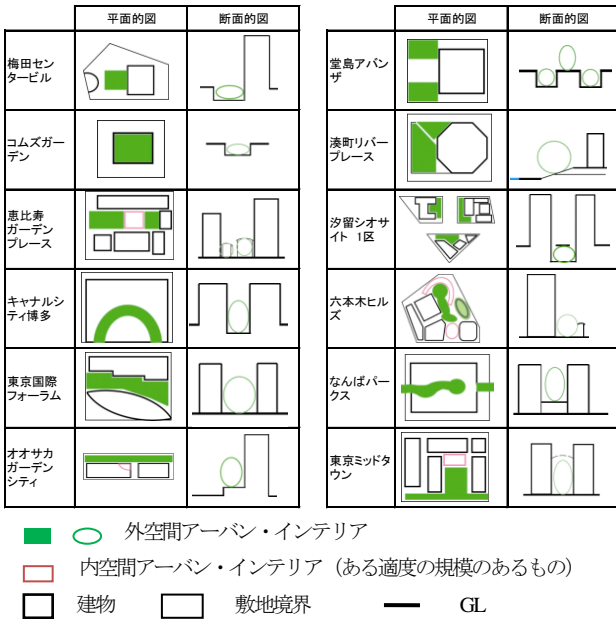


図-2 空間形態ダイアグラム

インテリアが敷地境界に接しているのは、例えば堂島アバンザのように地下レベルにあるか、湊町リバープレイスのように2階レベルの上がっているような場合であり、周囲環境とのレベル差の工夫が見られる。また、湊町リバープレイスは特に川に接しているという独特の立地条件を上手に使い、ウォーターフロント開発に伴う、川に向かって視界の広がるアーバン・インテリア空間の創出している。

敷地内を通り抜けている場合も、キャナルシティ博多のように、同じ道路に出てくるもの、東京国際フォーラムのように、敷地内をショートカット的に、貫通できるもの、なんばパークスのように、常に上階レベルで貫通できるもの等、いくつかのタイプが見られる。

5. 空間的様態の類型化と特徴

4. における空間形態ダイアグラムを基に、その類型化を図り、道路との接し方や空間の特徴、内空間アーバン・インテリアとの繋がり等を表したのが、図-2である。これより以下の事柄がわかる。

(1) 敷地内配置

外空間アーバン・インテリアと地区あるいは敷地との関係は、①建物の周縁に沿っている周縁タイプ、②敷地内の建物に囲われた敷地内タイプ、③地下に下がっているサンクンガーデンタイプ、の3タイプに大別できる。

周縁タイプは、敷地内に建物が1棟、あるいは、一列に建ち、建物周囲に外空間アーバン・インテリアが広がっているため、道路との接面が比較的大きくなる。

敷地内タイプは、さらにその配置により、貫通タイプ(敷地を貫通する)、アイストップタイプ(敷地内を貫通しかけるが、途中、奥正面に大きなアイストップがあり、視線がとめられてしまう)、ホールタイプ(敷地内の中央に広場的にある)に細分類される。

貫通タイプは、両側の建物に挟まれて敷地を貫通するのであるが、貫通していく形状を見ると、建物配置や形状によっていくつかのパターンが見出される。東京国際フォーラムの建物ステップ状配置、キャナルシティ博多での緩やかな曲線を描く形状、なんばパークスでは自由曲線のようにくねる形状である。これらの建物配置や形状によって、外アーバン・インテリアでの視界には変化が生じ、視覚的な空間の豊かさを創り出していると考えられる。

アイストップ型の恵比寿ガーデンでは、外空間アーバン・インテリア空間の正面にファサードのきれいな主要建物を配置し、東京ミッドタウンでは正面に大屋根の架かったエリアを配置し、両側と奥の3方向が囲まれたような見せ方をしている。

東京ミッドタウンでは、敷地内にさらにコロネードと建物に囲われるようにして外空間アーバン・インテリアが作られ、これはホールタイプと分類できる。

サンクンガーデンタイプは、地下に大きくレベルが下がることにより、周囲の地表レベルの道路との関係が遮断され、歩行者占有、また占有感の強い空間を創り出している。また、堂島アバンザや梅田センタービルでは、サンクンガーデンとその周囲の地表面とを階段で結び、地上の外空間アーバン・インテリアとの一体感も図られている。これより、サンクンガーデンタイプはサンクンガーデンのみの型とサンクンガーデンリンク型とに細分類することができる。

(2) 道路接面

道路との接し方については、道路と接する部分の多いのは、大阪ガーデンシティのような周縁タイプである。ここでは、外空間アーバン・インテリアは道路と平行にあるが、道路面からはレベルが大きく上がり、道路との隔離が図られている。同じく周縁タイプの湊町リバープレイスでは、一方はウォーターフロントに面し、もう一方は2階レベルのデッキとなって道路面とは離れている。

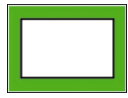




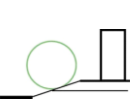




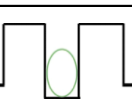
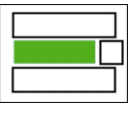
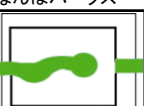

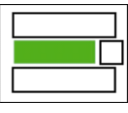

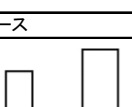
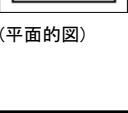

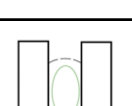
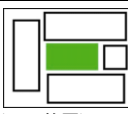

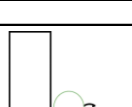




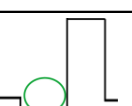

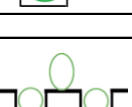


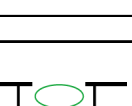
類型化	プロトタイプ	平面的 ダイアグラム	断面的 ダイアグラム	道路接面	全体的特徴	内空間 アーバン・ インテリア との接続	空間演出装置			
							ベンチ	緑	オブジェ	水
周縁	 (平面的図)	オオサカガーデンシティ								
				道路より1階 分以上上がる	大きなレベル差や植栽等で道路 から分離。 花壇や緑が多く、シリーズになっ ているオブジェが多くある。 コロネードがある	有	有	有	有	有
敷地内	 (平面的図)	湊町リバープレイス								
				一面は川、 一面はレベル 差	大階段、川に向かって眺望。 2階レベルの広場の空間		有	有		有
敷地内	 (平面的図)	東京国際フォーラム								
				高いポール が5本、車止 め	大きな樹木が多い。 木陰にベンチ等が配置。	有	有	有		
		キャナルシティ博多								
				道路から下 がるか、空 中歩廊でア クセス	道路と接する部分の空間幅は狭 く、道路から隔離。 緑、水が多い。	有	有	有	有	有
敷地内	 (平面的図)	なんばパークス								
				2階レベルで 入る	水が流れ、プランターボックス配 置。なんばパークス自体が大きな 屋上庭園を持つ。 特徴的な装飾パターンのある床 仕上げ	有	有	有		有
		恵比寿ガーデンプレイス								
敷地内	 (平面的図)			エントランス としてのプラ ザの空間	大屋根の広場を挟む。水が流れ る。スロープで上下する。	有	有	有	有	有
		東京ミッドタウン								
敷地内	 (平面的図)			広い街路空 間。ショー ケースボク スがゆったり と配置	正面の高い位置に大屋根がか かっている。 緑が多く、水が流れる。 地下空間が見える	有	有	有	有	有
		六本木ヒルズ								
敷地内	 (平面的図)			無	地理的状況もあり、周囲の空間よ り上がっている。建物ファサード と、コロネードに囲まれる。大屋根 のかかったプラザに接続。	有	有	有	有	有
サンクン ガーデン	 (断面的図)	汐留シオサイト 1区								
				無	地下空間で多方面に繋がる。 建物はそのまま上に伸び、地下 であることを感じさせない。	有	有	有		
		梅田センタービル								
				無	周囲の地上空間とは階段で連 絡。サンクンガーデンを囲むよう に、地下レベルにコロネード有り。	有	有	有	有	
		堂島アバンザ								
		無	地下街空間に接続。周囲の地上 空間とは階段で連絡。地上空間 にも緑に囲まれた外空間アー バン・インテリア有り。	有	有	有	有	有		
サンクン ガーデン	 (断面的図)	コムズガーデン								
				無	地下空間と接続。周囲の地上空 間とは階段で連絡。サンクンガ ーデンを囲むように、地下レベルに 店舗、底のある空間が有。	有	有	有		有

図-3 外空間アーバン・インテリアの空間形態類型化

敷地内の貫通タイプや、アイストップタイプでも道路と接する部分があるが、例えば、キャナルシティ博多では、道路から階段で下るか空中歩廊で道路を越えてアクセスする、なんばパークスでは2階レベルの空中歩廊で隣接する建物から直接アクセスするようになっている。レベル差をもうけることによって道路との間にバリアをもうけていることがわかる。道路とレベル差のない東京国際フォーラムでは、道路接面には、高いポールが立てられたり、車留めが配置され、また、東京ミッドタウンでは、幅広く取られた道路沿いのエリアには、ゆったりとしたショーケースがいくつも配置され、道路との距離感が作られている。

敷地内ホールタイプは敷地中央あたりに位置するため、道路との接点はない。サンクンガーデンタイプも道路との接点はない。

(3) 内空間アーバン・インテリアとの繋がり

外空間アーバン・インテリアは、恵比寿ガーデンプレイスや東京ミッドタウンでは、大屋根に覆われたプラザ的空間である内空間アーバン・インテリアに接し、丸の内オアゾでは、ギャラリーや室内広場空間といった内空間アーバン・インテリアに隣接している。オオサカガーデンシティでは、屋内公共通路へのアクセスを複数有し、さらに外空間アーバン・インテリアに沿って、建物ファサードの下層部にはコロネードが一部併設されている。六本木ヒルズでは、外空間アーバン・インテリアを取り囲むように緩やかに湾曲したコロネードで配置されている。

地下鉄駅とつながっているものとしては、コムズガーデン、丸の内オアゾ、汐留シオサイト、六本木ヒルズ、オオサカガーデンシティ等があげられ、これらからは、外空間アーバン・インテリアが地下空間という内空間アーバン・インテリアに連続していることがわかる。

今回対象とした14地区の内、13地区において内空間との接続を保っていることがわかった。外空間アーバン・インテリアは、様々な空間形態で内空間アーバン・インテリアとの強い繋がりを有していると言える。

(4) 空間演出的特徴

どの外空間アーバン・インテリアにおいても、ベンチ、樹木も含めた植栽やプランターボックス、噴水等（これらをここでは空間演出装置と呼ぶ）の設置が見られる。東京国際フォーラム、堂島アバンザでは、積極的に樹木が植えられ、木々の間の空間が楽しく演出されている。また、好ましい自然としての水も取り入れられ、恵比寿ガーデンプレイスや、東京ミッドタウン、オオサカガーデンシティ、キャナルシティ博多では、水が流されており、湊町リバープレイスでは川縁のウッドデッキに繋がり、外空間アーバン・インテリアでの視界は大きく川に向けられている。と同時に、それらの空間にはベンチや植栽等のヒューマン・スケールのものも配置されている。

外空間アーバン・インテリアは、空間が何らかの形で囲われることによって内部性が生み出されているだけではなく、空間スケールを都市スケールから人間のスケールにダ

ウンさせるこれらの空間演出装置によっても、積極的に内部性を創出させていると考えられる。

5. まとめ

近年の都市開発においては、外空間アーバン・インテリアとして、歩行者占有空間、緑や水等の好ましい自然の空が積極的に取り入れられており、それらの空間形態は大きく、周縁タイプ、敷地内タイプ、サンクンガーデンタイプに類型化できることがわかった。また、外空間アーバン・インテリアは、屋内公共通路、建物内アトリウム空間、一部が大屋根に覆われた遊歩道空間、地下鉄駅や地下通路・地下街空間等の内空間アーバン・インテリアとの連続性が保たれていること、この空間内には、空間スケールを都市的スケールから人間のスケールに合わせるように、ベンチ等の空間演出装置が配置されていることも明らかになった。

そして、外空間アーバン・インテリアの内部性は、空間形態的に囲われているだけでなく、内部空間との繋がりや物的・スケールの人間（歩行者）の空間と感じられることとも深く関わりながら生み出されていると考えられる。

アーバン・インテリアという観点からは、外空間アーバン・インテリアと内空間アーバン・インテリアとの密接なつながりが見られ、内・外融合したような、寧ろアーバン・インテリア・コンプレックスと言っても良いような、複雑化したアーバン・インテリアの様相を伺うことができたと見えよう。

参考文献

- 1) ポール・ズッカー：都市と広場、鹿島出版会、1975
- 2) オーガスト・ヘックシャー：オープンスペース アメリカ都市の生命、鹿島出版会、1981
- 3) ホイットニー・ノース・セイモア・Jr.：スモールアーバンスペース 都市のヴェストポケット、彰国社、1973
- 4) バウルハンス・ペーターズ：人間のための都市、鹿島出版会、1978
- 5) バーナード・ルドフスキー：人間のための街路、鹿島出版会、1973
- 6) ヴァルター・ベンヤミン：パサージュ論 I、岩波書店、1945
- 7) Johann Friedrich Geist (ガイスト)：Arcades The History of a Building Type, The MIT Press, 1983
- 8) リチャード・サクソン：アトリウム建築 発展とデザイン、鹿島出版会、1988
- 9) マイケル・J・ベドナー：商業空間とアトリウム、鹿島出版会、1993
- 10) ヘルマン・ヘルツバルバー：都市と建築のパブリックスペース、鹿島出版会、1995
- 11) 鳴海邦碩：都市の自由空間 道の生活史から、中公新書、1982
- 12) 榊原和彦・ベリー史子・土橋正彦：アーバン・インテリアとしての地下街の空間意識に関する研究、日本インテリア学会論文報告集、1999
- 13) 榊原和彦：総論1 アーバン・インテリアとは何か、建築と社会、日本建築協会、1999,9
- 14) ベリー史子：海外のアーバン・インテリア、建築と社会、日本建築協会、1999,9
- 15) ベリー史子・榊原和彦・塚本直幸：VRを用いたアーバン・インテリア空間構成と空間感覚評価に関する研究、日本都市計画学会都市計画論文集、1999
- 16) ベリー史子・榊原和彦・福井義員：注視行動に着目したアーバン・インテリアの空間知覚に関する研究、日本都市計画学会都市計画論文集、2003

本研究は科研費（19560638）の助成を受けた研究成果の一部である。